

「告訴もしない、上司の処分も甘すぎる！」「議員はキビシイ監視役を果たせ！」

前課長の不祥事が報道され、「明るい町にする気持ちがあるのか」との声が上がります。町民から聞く声は、とんどが「なんで、着服したことを認めているのに、何で捕まらんのや！！」と怒りと町政への不信が入り混じった気持ちを読み取れます。公金横領事件の早期解決は、当面する町政の最大の課題です。

4日、総務民生常任委員会が、公金横領事件、前税務課長の地方公務員法違反処分をテーマに開かれました。これは、山田裕康、山田充、西澤の3議員連名で開催要請（7月15日）していたもの。

同委員会開催前に同じく3議員が共同して北川町長あての質問状を提出。質問状に沿って質疑・協議をおこないました。この質問状を紹介し（見出しは編集者）

町職員（当時）による 公金横領事件ならびに 前税務課長の処分に 関する質問状

私たちは、甲良町議会6月定例会において可決（6月13日）された「公金横領事件の早期告訴ならびに事件の全容解明と再発防止のための第三者による調査委員会設置を求める決議」（決議第6号）の趣旨に則り、事件の全面的な解決と「不正は許さ

ない、誇りの持てる甲良町」に踏み出したと評価できる町政になることを切に願っています。公金横領事件発覚から、この8月13日で7ヶ月が経過し、K元職員が当初から一貫して横領事実を自認しているにもかかわらず、刑事責任も問われず、逮捕もされない異常事態が続いています。

このように、町行政が町民に不信を与えている事態の時こそ、町民の代表たる議会が行政への監視・監督の役割を果たさねばなりません。その役割にかんがみ下記の通り質問します。

記

【公金横領事件について】

1、事件発覚以来、幾度も行われた当事件に対する質問で被害額は「捜査の関係上公表できない」とされてきたが、7月11日、K容疑者にかかわる債権者会議で請求した甲良町の債権額に合わせて「被害額は約3,370万円」と公表された。現在容疑者が逮捕もされない段階で、被害額を公表したことから見えることは、「捜査の関係上公表できない」とする言い訳は「着服額の膨大さ」を覆い隠す意図があったのではないかと考えられる。見解は。

3,000万円の 出どころ不思議

2、本年7月11日全協において「被害額3370万円」と公表した被害額の根拠と経過を問われて、「1月18日からK容疑者を厳しく調査した金額を積み上げたもの」と説明された。3370万円の内、調査費の370万円を除く約3000万円は

3月議会や6月議会の時点でほぼ明らかになっていたのではないかと。「横領額約3000万円」はいつK容疑者に伝えたのか。

告訴しない理由は？

3、K容疑者は事件発覚当初からマスコミの取材に対しても犯行を認めている。その上「横領額約3000万円」を公表した時点で横領事実の証明が可能と見られる。にもかかわらず、刑事告訴しないのはいかなる理由か。

4、「隠し持っていた」とされる192戸分の2連納付書は、いつどこで、どのように発見されたのか。

5、「192戸分」の調査の結果、何戸分の裏づけ確認が判明し、その被害総額はどれだけか。

6、「隠し持っていた」とされる192



甲良民報

2016年8月7日 675号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在土463（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご意見・ご要望をどうぞ。

くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38 4949 丸山光雄 38 3123 松元たけし 38 3875

日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】

戸分が「真の被害額」の一部であると説明されているが、どのような根拠からなのか。横領行為の期間、件数はどれだけか。

- 7、刑事上の横領額と民事上の損害額が必ずしも「同一でなければならぬ」とは限らない。よって、損害請求は「真の被害額」が判明した時点で毅然とK容疑者に請求するべきと考える。見解は。
- 8、本年6月24日付回答で第三者による調査委員会によって行う必要がある旨述べているが、設置時期を明らかにすべきと考えるが、見解は。

【前税務課長の公務員法違反行為について】

- 1、前税務課長の公務員法違反行為に関し、「減給1割3か月

の懲戒処分」と報道された。どのような事実を掌握され、どのように判断した結果の処分か、明らかにされたい。ちなみに情報提供者によれば、テニス教室を運営するスポーツ施設が設立(平成4年)されて以来、約20年間にわたって毎週土曜日テニス教室のコーチを継続して行っていたと言う。さらに当教室の登録講師はA氏だが、ほとんど前税務課長が務めていた、と聞いている。

不祥事

町民に説明ナシ?

- 2、町民も議会も大変関心が強い町職員(当時)による税金等横領事件の直接の上司で全容解明の責任者の処分であるにもかかわらず、町民への説明(会見)もなく、議会

にも報告しない理由は何か、明らかにされたい。

- 3、このような時期こそ、町長はじめ幹部職員が率先して公務員の模範を示すことが求められています。町民に信頼され、職員が「全体の奉仕者」としての役割を発揮できる明るい町役場をよみがえらせるためにも厳しい処分が必要です。

職員は「全体の奉仕者」

兼業禁止規定は、地方公務員法で定める「全体の奉仕者」の理念を担保するための中心的条項である。この理念に対する違反行為が、この程度の軽い処分では済まされなくなれば、公務員のモラル・コンプライアンスを保持することがおろそかに

されかねないと憂慮する。処分の見直しが必要と考えるが、見解は。

- 4、このような処分の甘さ、発表のやり方では、町政における不祥事が続いている中、「不正は許さない」との毅然としたメッセージを町内外に示そうとする前向きな姿勢が全く感じられない。連続する職員の不祥事に対する貴職の認識の甘さ、危機意識の希薄さを表したものと考えるが、見解は。

10日までの回答を

上記質問事項に対し、本日の口頭による回答も含め、書面にて10日までに議会事務局までご返答下さるようお願いいたします。



潮流

青く澄み渡る夏空に
むくむくとひろがる
入道雲。まばゆい光
が消え、雷が鳴り、

激しい雨が降ります。大暑の候「大雨時行」。気が付けば夏の盛りです▼参院選、都知事選が終わって第3次安倍再改造内閣が発足しました。民主党政権から安倍自公政権に代わって3年半余。衆参ともに多数の議席を得た現政権は「数」と「時間」を使って、何をするのか。日本をどこに導こうとしているのか▼要所に盟友や側近を配した布陣を安倍首相は「未来チャレンジ内閣」と名付けました。飾った言葉で実態を覆い隠す得意技は今回も。真っ先にあげた経済対策も、リニアなどの大型公共事業を借金頼みで押し進めるだけです▼最大のチャレンジは「働き方改革」と。しかし、長時間労働の是正を口にしたがら、やろうとしていないのはそれを野放しにする「残業代ゼロ法案。非正規」という言葉をこの国から一掃すると勇ましいが、雇用のルールを壊したのは誰か▼アベノミクス、原発、TPP、沖縄、そして憲法…。彼らのチャレンジは民意とかけ離れていくだけです。そこに未来はありません。8月は平和な世界、民主的な社会をめざす大会がつぎきます。その一つ一つの成功が暴走の壁となるはず▼夏の夕立を「白雨」と呼ぶことを本紙の天気コラムで知りました。明るい空から降る白っぽく見える雨。逆に空が真っ暗になる土砂降りを「黒雨」ということも。今の日本に降り注ぐようにしているのはどんな雨なのか。この夏じっくりと考えてみたい。